

事務事業名		緑のまちなみ整備事業		☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業		
政策体系	政策名	潤いに満ちた快適な都市環境の創造		事業期間		予算科目		
	施策名	良好な生活空間の創造		☐ 単年度のみ		会計	款	
	基本事業名	公園・緑地の整備		☒ 単年度繰返 (開始 14 年度～)		項	目	
根拠法令		都市緑地法第2条		☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～年度 ※全体計画欄の総投入量を記入		事業		
所属	部課名	都市整備部住宅公園課		01	08	05	03	
	課長名	千葉 洋一						09
	係名	公園係						
	担当者	佐々木 祥子						
	電話	0192-27-3111						
	内線	329						
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(※期間限定複数年度のみ)		
平成14年に策定した緑の基本計画の緑化計画に基づき、緑のまちなみづくりの一環として、住宅等の生垣設置 予定者から申請を受付し、その経費の一部を補助する。 主な業務は、①補助金申請の受付、②書類審査と現地調査、③補助金交付決定、④事業の完了確認、⑤補助 金の支払い、⑥その他に制度の広報、周知。 事業費は、申請者に対して交付される補助金である。 補助額は、樹木の購入経費及び生垣の工事費の2分の1以内の額で5万円限度。						総投入量 (千円)		
						事業費	国庫支出金	
						財源内訳	都道府県支出金	
							地方債	
							その他	
							一般財源	
						事業費計(A)	0	
						人件費	正規職員従事人数	
							延べ業務時間	
						人件費計(B)	0	
						トータルコスト(A)+(B)	0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)		⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		名称	単位
住宅の生垣設置補助申請4件。		ア 補助金交付件数	件
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		イ	
継続して当該補助制度のPRとともに、申請を受付して対象者に補助する。		ウ	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
住宅等の所有者で生垣を造成する者、まちなみ。		名称	単位
		カ 補助申請者数	人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		キ	
住宅等の生垣造成を促進し、緑のまちなみをつくる。		ク	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)		⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
緑地が確保されている。		名称	単位
		サ 造成された生垣の距離	m
		シ	
		ス	

(2) 総事業費・指標等の推移

		年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)
		単位						
投入量	事業費	国庫支出金	千円					
	財源内訳	都道府県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円	0	194	129	166	1,000
		事業費計(A)	千円	0	194	129	166	1,000
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1
		延べ業務時間	時間	15	15	15	15	15
		人件費計(B)	千円	60	60	60	60	60
		トータルコスト(A)+(B)	千円	60	254	189	226	1,060
⑤活動指標		ア 件	0	6	4	4	20	20
		イ						
		ウ						
⑥対象指標		カ 人	0	6	4	4	20	20
		キ						
		ク						
⑦成果指標		サ m	0	100.9	54.7	69.0	100	100
		シ						
		ス						

事務事業ID	0645	事務事業名	緑のまちなみ整備事業
--------	------	-------	------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

平成14年に策定した緑の基本計画の緑化計画に沿い、平成15年3月に補助金交付要綱を制定し、事業が開始された。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

緑の景観や環境に対する意識がますます高まってきている。
東日本大震災による住宅再建に伴う生垣設置の件数増加が見込まれる。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

補助交付要件に植栽する樹木の樹高や植栽密度等について規定されているが、一部住民からこの交付要件の緩和について意見が出されたことがある。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	緑化の推進は、良好な都市環境の整備につながる。	
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
有効性 評価	なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	緑豊かなまちづくりを推進していくための一環として、住宅緑化の推進や保全を図るためには、広範囲に積極的な行政の誘導・関与が必要である。	
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	道路に面した住宅の緑化を目的としており、対象及び意図は妥当である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	比較的新しい制度であるため、今後も市民に制度の周知を行い、実績件数を増やすこと等によって地域に浸透させていくことができると考えられる。	
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
有効性 評価	事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	緑の基本計画に関連する新規事業であるため、施策実施の停滞につながる。	
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	類似事業がない。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	比較的新しい事業であるため、当面は補助率や補助限度額を下げずに、事業の浸透・定着化を優先すべきと考える。	
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
公平性 評価	やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	事務の内容は、書類審査及び現地確認事務が中心であるので、正職員が対応せざるを得ない。	
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	補助対象要件及び補助率等は適切な範囲と考えており、一定の条件はあるものの市全域を対象としているので、受益機会は公平である。	

事務事業ID	0645	事務事業名	緑のまちなみ整備事業
--------	------	-------	------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 平成26年度は申請件数4件。震災前の申請件数は年間2〜3件で推移していたが、震災後の住宅再建に伴う生垣設置件数は今後も増加すると見込まれ、植栽適期にあわせた制度の周知を図り、有効利用を促したい。																			
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																															
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																															
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																															
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																															
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) <table border="1"> <tr> <td>☐ 廃止</td> <td>☐ 休止</td> <td>☐ 目的再設定</td> <td>☐ 事業統合・連携</td> <td>☐ 現状維持</td> </tr> <tr> <td colspan="5">事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</td> </tr> </table> (上記方向性に対する具体的な内容) 引き続き事業の周知を図って実績の向上に努め、事業目的である緑化の推進とともに、市民の緑化に対する意識の高揚を図る。市広報への掲載方法を工夫したり、造園事業者等にパンフレットを配布するなど工夫を検討する。		☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☐ 現状維持	事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)					(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☐ 現状維持																													
事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)																																	
		コスト																															
		削減	維持	増加																													
成果	向上		●																														
	維持			×																													
	低下		×	×																													
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 特になし。																																	

	(職 名) ※原則として施策の主管課長	(氏 名)
2次評価者	住宅公園課長	千葉洋一

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(3) 評価結果の根拠と理由 各地区公民館を中心に、花いっぱい運動や環境美化運動、また、各種団体による植樹会などが実施され緑地の保全等が進められている。今後も市民の緑化に対する意識の高揚を図りながら、引き続き該当事業の周知を図って事業の向上に努めていく必要がある。																						
(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) <table border="1"> <tr> <td>☐ 廃止</td> <td>☐ 休止</td> <td>☐ 目的再設定</td> <td>☐ 事業統合・連携</td> <td>☐ 現状維持</td> </tr> <tr> <td colspan="5">事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</td> </tr> </table> (上記方向性に対する具体的な内容) 緑に対する市民の意識を高めるためにも、事業については継続し実施していくが、周知方法を工夫しながら本事業を定着させる必要がある。	☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☐ 現状維持	事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)				
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																						
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☐ 現状維持																				
事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)																								
		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×	
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		●																					
	維持			×																				
	低下		×	×																				

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
